

## 『原爆文学研究』編集委員

後山剛毅 加島正浩（編集長） 樫本由貴  
楠田剛士 中尾麻伊香 中野和典 長野秀樹  
野坂昭雄 堀本嘉子 松永京子 山本昭宏

## 編集後記

表紙をご覧になってお気づきになった方もいらっしゃるかと思いますが、今号より機関誌の英語名を、世話人間の会議を経て変更しております。二〇号までは「Journal of Genbaku Literature」でしたが、今号より「Journal of Atomic Bomb Literature」に変わっております。また、機関紙の英語表記の変更にもない、研究会の英語表記も、「Society of Genbaku Literature」から、「Society of Atomic Bomb Literature」へと変更いたしました。日本一国ではなく、多様な「被爆／被曝」の問題を考える場として発展し、開かれてきた本研究会において「Genbaku」という日本語での呼び名を採用しつづける必要があるのかという考えに基づき、変更をいたしました。

私は二〇一七年から本研究会にお世話になっております。ただ私は、原発と震災の報告をするばかりで、原爆の報告がまだまだできずしております。それは私の能力の至らなさであり、決して好ましいことではありませんが、そのような人間でも引き入れてくれる研究会の裾野の広さを示す一例ではあるかもしれませぬ。原爆文学研究会に育てていただき、な

んとかよちよち歩きでアカデミズムの末席へとたどり着き、あたりを泥まみれにしてそこからかしこを汚しながら、なんとか生き延びることができております。微々たるものではあります。これから学恩をお返ししていければと思っております。

年々増加する大学をはじめとする研究機関の仕事量にもかかわらず、原稿をお寄せいただき、五本の批評の掲載と、合評会と再読企画の紙面化を行うことができました。原稿をお寄せくださったみなさまと、お忙しいなか、ご寄稿くださった佐藤泉さん、成田龍一さんに深くお礼申し上げます。

今回、編集業務を担当し、研究会を維持することの大変さの一端を学ばせていただきました。編集業務は、私が想像していた以上に大変なものでした。研究会を支え、機関紙を発行し、これまでの研究会に発展させてくださった数多くの方々に、改めて深くお礼申し上げます。また今号は、世話人のみなさまのお力、特に立ち上げより事務局を担当されている中野和典さんのお力添えのおかげで、なんとかみなさまのお手元にお届けすることができております。世話人のみなさまにも、改めてお礼申し上げます。

研究会の開催・機関紙の発行は今後も続いてまいります。発表や投稿を行っていらっしゃる新しい新入会員のみなさまのご報告も、首を長くしてお待ちしております。（加島正浩）

## 原爆文学研究

21

二〇二三年二月二十八日発行

## 編集

原爆文学研究会

〒441-8600

福岡市城南区七隈八一一九—1

福岡大学人文学部

中野和典研究室気付

## 発行

（有）花書院

〒810-0111

福岡市中央区白金二一九—2

〒812-8556

〒812-8556

定価 二二〇〇円（本体二二二円）

◇書店にない場合は「地方小出版流通センター扱い」とご指定の上、書店にご注文下さい。

◇継続購読は、花書院「原爆文学研究係」にお申し込み下さい。送料は無料となります。